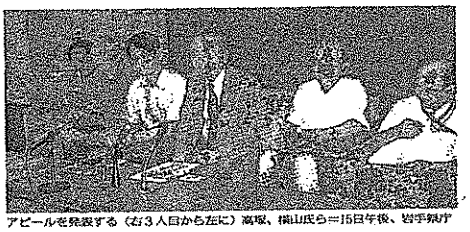
7/16 赤旗

戦争法案 強行採決

列島包む叫び

岩手 「方法野蛮」と大学人



アピールを発表する（右3人目から左に）高塚、横山氏ら＝15日午後、岩手県庁

岩手県の大学関係者、研究者、弁護士有志は15日、県庁で記者会見し、「戦争防衛法案・廃法運動の安倍政権を求める」アピールに345人が賛同を寄せたと発表しました。憲法教授、大学教員、弁護士など58人が呼びかけ人となり、6日から9日間で2871人の賛同を得ました。

呼びかけ人代表の高塚隆之岩手大学名誉教授は、同日、与党が衆院安保法制特別委員会で同法案の採決を強行したことについて「反対の世論が高まる中、安倍政権は極めて野蛮な方法に出た。断固抗議する」と強調。国民の怒りはさらに強まらざるを得ないと指摘し、同法案を必ず廃案に追い込むために力を尽くす、と訴えました。

呼びかけ人の横山英資岩手大学教授は、▽憲法前文の「国際協調の精神」を踏まえた同法案の憲法違反の本質は変わらない▽憲法9条をないがしろにした「歯止め」はない―と批判。賛同の急速な広がりを確信に、廃案へ向けた声を大きくしていくと語りました。

山梨 国民の声なぜ聞かぬ

山梨県弁護士会（飯塚雅文会長）は15日朝、戦争法案の衆院での採決強行を許さなど、「動こうぜ！」を合言葉に県内一斉駅頭街宣活動」に取り組み、甲府、韮崎、大月、上野原の各JR駅前で、通勤、通学者に法案の廃案を訴えました。弁護士ら40人を含め250人が参加しました。

中島剛会長らは「憲法違反の法案は廃棄しかない」の声をさらに大きくしていく」と語りました。

新緑駅前では、中島大輔（だいすけ）副会長や小野正樹副会長ら9人の弁護士が、韮崎市、北杜市の「憲法9条の会」の会員ら15人（68）は、「国民多数の声を聞かない安倍さんの首をすげ替えるしかない」と署名を呼びかけました。

大阪 これ民主主義でない

15日、大阪・梅田のヨドバシカメラ前では関西の学生でつくる「SEALDs KANSAI」（シールズ関西）が緊急の街頭宣伝を行い、強行採決に抗議しました。「安倍政権の暴走を許さない」と書いたプラカードを手に、学校帰りの高校生など、2000人（主催者発表）が詰めかけました。

マイクをもった塩田調さん（24）は「強行採決は、憲法の民主主義の政治のやり方ではない。こんなことを許してはいけない」と力を込めました。

学校帰りに参加した宮見優子さん（22）＝専門学校4年＝は「政府から『戦争』という言葉が聞けれは国民は忘れる」という声も出たが、私たちは諦めない。安倍政権の思い通りにさせたくない」と語りました。

長野 世代超え「許さない」

戦争法案の強行採決に抗議し、集まった人たち＝15日、大阪市

長野市で15日、戦争法案絶対反対の緊デモが取り組まれ、若者から年配の世代まで140人が市内繁華街を行進しました。憲法かえ

長野県の内田樹さんがマイクを握り、共産党の議員がメッセージを寄せ、共産党の志位和夫委員長の「反対の先頭に立つ」とあいさつ。民主党